

2016年6月発行

# 安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>

発行：安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



水田の排水性を向上させ畑作物を栽培



鴨川七里®大豆栽培に取り組んでいます



食用ナバナの束出荷に挑戦



集落営農を推進するための会議

## 集落営農への挑戦!

鴨川市内に平成27年6月に設立した、(農)北小町ファーム(組合員7名)を紹介します。

鴨川市北小町地区では、平成31年度に経営体育成基盤整備事業の採択に向けて、様々な集落営農活動が始まりました。1.1haの耕作放棄地の解消に取り組み、鴨川七里®(枝豆・大豆)や食用ナバナの栽培に取り組んでいます。

野菜の栽培が初めての組合員が多い中、播種・定植・出荷調製作業などを組合員が協力しながら頑張っています。

今後は、効率的に作業ができるよう農地を集積し、将来はライスセンターの建設も計画しており、担い手が少ない中、地域の担い手として期待されています。

集落営農に興味がある方は、当事務所まで御連絡下さい。

## 食用ナバナの根こぶ病対策に

### ついて

平成27年度に実施した調査によると、根こぶ病は、安房地域の食用ナバナ生産者の34%で発生しています。

ほ場の病原菌密度が増加するほど防除が困難になります。次の対策を実施し、確実に防除しましょう。

1 抵抗性品種を選ぶ  
抵抗性を持つ品種（名称の最初に「CR」がつくもの）を選んで栽培します。

2 ほ場条件を改善する  
（排水性向上と土壌pH上昇）  
根こぶ病菌は、水とともに移動します。このため暗渠や明渠を設置し、高畝にすることで、排水性を向上させます。

また、根こぶ病は、土壌のpHが7.2以上になると、発病しにくくなります。このため、土壌分析を行ってほ場のpHを確認した後、7.2を目標に石

灰資材等を施用します。

3 ほ場に薬剤を使用する  
播種又は定植前に、ネビジン粉剤、フロンスサイド粉剤等の殺菌剤をほ場に混和します。

4 育苗し、薬剤を処理して定植する

根こぶ病菌は、地温18℃以下では、活動が鈍くなります。そこで、セルトレイ等で育苗し、地温18℃以下になる10月中下旬頃に定植します。

また、殺菌剤（ランマンフロアブル、オラクル顆粒水和剤）をかん注してから定植すると更に発病を抑制できます。



適切に対策を実施した場合の根こぶ病の抑制効果

根こぶ病でお困りの方は、当事務所まで御連絡ください。

## 稲わらの活用をもう一度見直してみませんか？

鴨川地域の畜産農家では、自給飼料生産を見直そうという動きが現れ、この3年間に自給飼料に関する組織が3組織設立または改編されました。その中で、稲わら収集を目的とした、鴨川市の「曾呂稲わら組合」を紹介します。

「曾呂稲わら組合」は鴨川市曾呂地区の畜産農家2戸で組織された組合で、鴨川市内の水田で年間30haほどの稲わらを収集しています。収集した稲わらは近隣の和牛肥育農家に販売しており、残りは自家利用しています。和牛肥育・繁殖農家では、稲わらは粗飼料として重宝されており、酪農家でも乾乳牛（乳搾りを休んでいる牛）などに利用する人もいます。

「曾呂稲わら組合」では、自家利用分を増やすために、

収集体系に関する機械の見直しと保管方法の検討を行い、40haの収集を目指しています。

水田の有効活用の観点では現在WCS用稲の作付が急激に面積を伸ばし注目されていますが、稲わらの収集や有効活用も、もう一度見直してみませんか。今後も当事務所では、稲わらの効率的な確保を応援していきます。



曾呂稲わら組合の稲わら収集の様子

## 水稻食味向上のポイント

米の食味に影響を与える要因は、品種、施肥、気象、作期、土性、水管理、収穫時期などがありますが、栽培管理の中では、窒素の施用量と玄米中の窒素含有率（タンパク質含有率）との関係が最も大きく影響します。

### ①窒素量の減肥

食味に影響を与える肥料成分として、カリはマイナスに、リン酸、マグネシウムはプラスに作用すると言われていますが、最大の要因は窒素です。窒素過剰により玄米中のタンパク質含有率が高くなると、飯米の味と粘りが低下し、硬さが増し食味が悪くなります。したがって、良食味米生産のためには玄米中のタンパク質含有率を高められないような施肥管理が求められます。

収量との兼ね合いもありますが、できるだけしっかりと

た苗を育て、窒素量を控えることが必要です。

### ②水管理の徹底

また、水管理も重要であり、中干しは軽めに行って下さい。落水の時期は、粃をじっくりと太らせ、ミネラル分を十分玄米に入れることを考えて、出穂から30日以降にしてください。

### ③稲の観察と適期収穫

「田廻り」をきちんとするだけで食味は良くなります。田を一周し、稲の様子（草丈、分げつ数、葉色）を観察して適切な管理に努めてください。収穫時期は適期刈りが理想ですが、収穫期の雨や、コシヒカリへの作付け集中などの障害要因を考慮すると、やや早刈りが良いと思います。食味を上げるポイントは根にあります。玄米が太る時期、8月に細根がしっかりと張っている必要があります。

## 切花の品質保持技術の紹介

〜できることから始めよう〜  
切花に対し「日持ちの良さ」

を求める消費者ニーズは非常に高く、8割の消費者は7日間以上日持ちする商品を求めています。日持ちとは、観賞可能期間（日数）のことで、消費者の主観にゆだねられますが、参考として観賞価値を失った状態の判定マニュアルが、(一財)日本花普及センターのHPで公開されています。

以下、日持ちを縮める主な原因と対策を紹介します。

### ①エチレンによる老化

エチレンは切花自身から発生し、多くの品目で老化を促進します。エチレンに強い花と弱い花がありますが、弱い花（カーネーション、トルコギキョウ等）にはエチレンの働きを止める薬剤、STSが有効です。処理する際は、使い回し・濃度不足・処理時間不足

に注意が必要です。

### ②細菌による導管閉塞

茎元の導管が細菌で詰まると、切花は水が吸えません。水揚げ用のバケツの洗浄と抗菌剤が有効です。手と同じで、洗浄は水洗いでは不十分なので、少量の台所洗剤でヌメリ（細菌の塊）や汚れがないように洗います。また、底に残った水で細菌が繁殖するので、洗った後のバケツを伏せておくだけでも違います。

### ③高温による熱中症

気温が高いと植物の呼吸量が増え、エネルギーを消耗し、エチレンの発生量も多くなるため、日持ちが短くなります。このため、朝夕の気温が低い時間帯に採花し、出荷まで一貫して温度を上げないような管理が必要です。

以上を参考に、手軽に行えることから、対策を取り入れてみてはいかがでしょうか？

**安房地域の若手農業者紹介**

館山市山本で観光イチゴ狩り園を家族で経営している小澤綾子さんを紹介します。

小澤さんは、県外の民間企業に8年間勤め、26歳の時に地元館山へと戻り、平成19年に就農して、現在就農9年目になります。

小澤さんの園では、紅ほっぺや章姫、やよいひめ等の品種を栽培しています。

イチゴ狩り園の他に、市場出荷もしており、地元スーパーで販売されています。また、市場出荷に適さない規格外（果実が小さい等）のイチゴは自宅でジャムに加工し、イチゴ狩り園で販売しています。新たな販売先として地元の直売所にもイチゴを出荷しようと考えていたそうですが、暖冬の影響により、イチゴの色付きが早く、収穫・調製作業に時間を取られてしまい、

直売所に出荷する手続きができなかったそうです。次作は、「直売所に出荷できるように頑張りたい。」とのことでした。今後の目標として、「現在は、イチゴの栽培管理やイチゴ狩り園の経営等を、父親が主となって取り組んでいます。父親と代わって経営に取り組むことができよう、しっかりと学びたい。」と話してくれました。



小澤綾子さん

**食用ナバナチャレンジセミナーの御案内**

当事務所では、JA安房、(一財)南房総農業支援センター及びJA安房菜の花部会

の協力の下、播種や束調製の実習を含む全3回の研修を開催します。参加は無料です。食用ナバナを栽培し出荷したい方は、7月15日までに当事務所まで御連絡ください。第1回は、8月上旬を予定しています。

**第65回関東東海花の展覧会**  
農林水産大臣賞受賞者の紹介

鈴木 直人(安房郡鋸南町)  
カーネーションの部  
太田 喜明(館山市)  
球根切花の部

**平成27年度農業の未来を作る女性活躍経営体100選**  
認定者の紹介

(株)須藤牧場(館山市)  
が、千葉県で初めて認証されました。

**農業経営者研修会「農業経営体にとつてのマイナンバー制度」(仮称)開催のお知らせ**

7月8日に安房合同庁舎で開催予定です。詳細は当事務

所までお問い合わせください。

**改良普及課職員紹介**

改良普及課長 小林 寛子  
主席普及指導員 石川 浩司

**【館山グループ】**

石井義久(グループリーダー) (花き)  
大山 康彦 (花き)  
清水 ゆかり (作物・畜産)  
白井 徳一(野菜・果樹・生活)  
渡邊 信吾 (野菜)

**【鴨川グループ】**

齋藤秀一(グループリーダー) (作物・花き)  
加藤 美紀 (作物・花き)  
上堀内里紗(生活・野菜・果樹)  
中原 祐樹 (畜産)  
竜澤 はるか (野菜)

**【南房総・鋸南グループ】**

渡部和彦(グループリーダー) (畜産)  
金子 貴一 (畜産)  
田中 千華 (花き・生活)  
影山 浩司 (果樹)  
橋本 威 (野菜)  
林 聖麗 (花き)  
小宮 良美 (作物)  
松永 大樹 (野菜)  
山田 知実 (果樹)